

日本薬学会 第131回年会（静岡）特別シンポジウム

「天然物化学とケミカルバイオロジー」

オーガナイザー：阿部 郁朗（東大院薬）

脇本 敏幸（東大院薬）

日時：平成23年3月30日（水） 9:00～11:30

場所：グランシップ・風（11F）

薬学における天然物化学の歴史には長井長義博士のエフェドリン以来、輝かしい数々の功績があり、周辺多領域へさまざまな波及効果を及ぼしてきた。1つの生理活性物質の発見がその後の化学、生物学に絶大な影響を及ぼし、新領域を開く契機となることはプロスタグランジンの事例を見るまでもなく明らかである。一方で近年の天然物化学は単離・精製および構造決定を基盤とする古典的な生理活性物質の探索からケミカルバイオロジーへの展開へと分野を拡充し、より多面的な広がりを見せつつある。しかし、天然由来の新規な生理活性物質の重要性はいつの時代も変わらず、そこに立ち位置に定めることに変わりはない。むしろ天然物から周辺多領域へ展開する姿勢は天然物化学の本懐とも言える。本シンポジウムでは天然物を足場とし、ケミカルバイオロジーへ展開する新しい天然物化学を牽引するシンポジストを招き、過渡期にある天然物化学の将来像を模索したい。

【プログラム】

オーガナイザー挨拶

（東大院薬） 阿部 郁朗

新規生物活性天然有機分子の開拓とケミカルバイオロジー研究

（京大院薬） 掛谷 秀昭

フィロポディア形成阻害物質の探索とその標的分子同定

（慶應大理工） 井本 正哉

新しいターゲットをもつ抗生物質の探索

（北里大感染制御院／北里大生命研） 塩見 和朗

海洋無脊椎動物由来の新しい医薬シーズ探索

（九大院薬） 宮本 智文

海洋天然物カリクリンAに基づくケミカルバイオロジー研究

（東大院薬） 脇本 敏幸

昆虫を利用する天然物化学研究

（東北大院薬） 大島 吉輝

問い合わせ先：阿部郁朗 TEL: 03-5481-4740 E-mail: abei@mol.f.u-tokyo.ac.jp